

前回の振り返り

1 子どもの権利に関する理解促進に関する検討

対象や手段について

(子どもへの啓発)

- 子どもの興味を引くような動画を作成してはどうか。中野らしさ(芸人やキャラクターとのコラボなど)や親しみやすさを出せると良い。例えば動画をつくるコンテストを開催してみてもどうか。また、あまり長いものを作るのは大変なので、1分程度の気軽なものや単発的なものを集めたりしても良いかもしれない。
- 学校が子どもにとっては一番大きなところである。理解を深める上で先生の話が効果的であることから、権利学習の資料を検討するのも一つの方法である。
- 保育園・幼稚園や学校で行われる朝の会の時間に、ディスカッション形式で話し合う時間を習慣化させると良いのではないか。
- 学校で学んだことを子どもがいかに家庭に持ち帰るかということも重要である。「授業で学んだ内容を家族に話してみよう」といった形で、誰かに話すことによって理解がもう一段上がると思う。
- 町会が実施するスタンプラリーで子どもの権利をテーマにしてはどうか。
- 生徒手帳は子どもが読むので、生徒手帳に掲載してはどうか。
- 保育園・幼稚園の子どもに伝えるためには、保育園・幼稚園の職員に向けた研修や、乳幼児の保護者向けの講座を行うと良いのではないか。
- 就学前の子どもも権利学習の対象として考えることができる。就学前の子どもに対しても、分かりやすい言葉で具体的な内容で話をすることは十分可能である。乳幼児期の子どもたちも話をすることができ、自分の思いや意見を伝えることができるということ、伝えられる権利の主体であるということをとらえる必要がある。【第2回参考メモp10参照】
- 分かりやすいロゴマークを作って公園でパネル展示などを行えば、子どもも大人も目にするのでいいのではないか。SDGsも可愛らしくおしゃれなロゴを作り、成功した。
- しんどい思いを抱える子どもや親は下を見る。「下に作る」という発想も良いかもしれない。(マンホール、道路のライン、ケンケンパなど。)
- 外国籍の子どもは母国語で話せるオンラインゲームで遊ぶ子どもが多い。ゲームの中で周知ができると良いのではないか。

- 大学生は、子ども時代のことを覚えているし、大人としての立場を学び始めている時期であるため、大学生と一緒にアイデアを考えるなど、関わりを持ちながら啓発を考えても良いかもしれない。

(大人への啓発)

- 大人へ啓発するときは、保護者にプレッシャーを感じさせないような見せ方をするよう注意が必要である。もやもやを抱えていたり、子育てに悩んでいる場合に吐き出せるような場所を同時に案内するなど、工夫が必要である。
- 大人への啓発では、子ども支援団体など、子どもに関心のある方々にまずは研修を行ってはどうか。中野区には子育て支援団体のネットワークがまだないが、他自治体で行われているようなメッセを行うなど、つながりをつくって関心のある方にまずは学んでもらうことで、そこから広がっていきけるのではないかな。
- パネルやポスターも子どもがいない方には効果的だと思う。ポスターについてもコンテストなどを実施することができる。

子どもの権利の日にあわせた啓発について

- 11月20日にあわせた啓発については、講演会だけでなく、区民全体で子どもの権利について話し合えるような機会を作ったり、子育て支援団体がつながることができるようなイベントをあわせて開催するなど、区民参加型で実施できると良いのではないかな。
- 11月は児童虐待防止月間なので、それとあわせて集中的に広報啓発し、「11月は区全体で子どもの権利を考える」という機運を醸成できると良い。
- (開催場所は児童相談所を含む複合施設内であるが、)児童相談所は保護者にとって非常にハードルが高いと思われるので、相談窓口を写真等で案内するなど、身近なものであることをアピールできると良い。

2 子どもの意見表明・参加の促進に関する検討

子どもの意見表明・参加について

- 児童生徒と区長のタウンミーティングも意見表明の場の一つである。
- 他自治体事例にある、児童館での子ども運営委員会の取組はとても良いと思った。児童館の先生と子どもとのやりとりを支援できると良い。
- 児童館の運営委員会に子ども委員が常駐していると良い。
- 現在児童館で子どもや保護者に対してアンケートを実施しているが、継続してそのよ

うな取組ができると良い。

- 実態調査の自由記述欄でも、公園や図書館など、公共施設への意見が多く見られた。子どもたちが自分で使っている施設なので、子どもが一番気づく「当事者」である。そういった子どもたちの意見が日常的に集約されて、反映されていくような仕組みがあると良い。公園や図書館など、様々な場で子どもが意見を出せる場を作ることができると良い。
- 区長への手紙も子どもを排除するものではないのだから、きちんと明記してほしい。（板橋区でも小学生が区に陳情を出した。）
- 行政への要望書について PTA でアンケートを実施しているが、今回は保護者だけでなく、子どもにも実施した。子どもから得た数件の回答では「特になし。」という意見が多かったが、本当にはないとは思えない。「答えたところで変わらない」と、子どもが諦めているのではないか。また、いきなり大人が聴いてもなかなか答えてくれないのではないか。「意見を言っても大丈夫なんだな」という空気をいかに作って集めるかが大事だと感じた。
- 直接話を聴くことが重要である。子どもの意見表明とは、子ども自身に意見を表明する能力を求めることではなく、子どもたちの言葉にならない思いも含めて大人がどう聴くかというスキルが求められる。大人が試行錯誤して、子どもから何らかの形で直接話を聴くことを考えても良いのではないか。
- 子どもの声の聴き方や子どもの本音を引き出すスキルを学べる研修があると良い。

子ども会議について

- 子ども会議の課題として、学校を遠巻きにしてしまうということがよくある。まちのゴミ問題や環境問題などがテーマとして取り上げられることが多いが、学校で問題に思うことをなかなか話せない現状がある。いじめをなくすことや校則を見直すことなどこそ、子どもにとって身近で、日常生活の安全に大きく関わっていくところであり、権利侵害を感じる場所である。こういった問題について話し合う場がもっとできると良いのではないか。